

# ヘビー級戦士・内田ノボルの復活の影で、 MAを支えた男・山崎通明が引退



○山崎が井上に浴びせ殴りを放ったところで試合終了。判定が下される直前、山崎は「勝たせてくれ」と絶叫した

①4階級制覇を狙った山崎(右)だが、その願いは叶わなかった。通算戦績は50戦30勝(10KO)15敗5分。②井上と山崎は8年前に一度対決。その時は乱打戦の末、引き分けている

●メイン/MA日本Sライト級  
タイトルマッチ 3分5R (第1試合)  
《両国王者》  
○井上 哲(山本ジム、63.2㌢、35歳)  
(判定3-0)※得点=50:48 50:49 50:48  
●山崎通明(東金ジム、62.9㌢、36歳)  
《挑戦者・同級1位》  
※井上が1打撃防衛に成功

○試合後、山崎のもとに井上が挨拶へ。山崎が引退したことでMAでは井上が最年長(35歳)選手になった。身体は頑丈なだけに、まだまだ大丈夫?



MA日本キックボクシング連盟  
SPIRIT  
9月28日●東京・後楽園ホール

③増田博正(左、ソーチタラシ)VS山田健博(東金)は増田がローで先制のダウンを奪いながら、山田の右アッパーでフラフラに。④一進一退の攻防の中、結局増田がローだけで計4度ダウンを奪って辛勝した



ベストバウトは増田VS山田!

⑤内田ノボル(ピクトリー)に中西陽介(山本)が挑戦したMA日本ヘビー級タイトルマッチは2R1分40秒、内田がKO防衛。試合後、内田は「またK1に出るので応援よろしく」とアピール



⑥木村元(右・土浦)は水町浩を判定で破って、空位のMA日本ライト級王者に。⑦グナム酒井(右・土浦)と中村高明(馬)の団体交流戦はヒザを効果的に使った酒井の判定勝ち。⑧ファイティング前沢(左・土浦)はカズ工藤(土浦)に判定勝ち。「最近しょっぱい試合が続いたので諦めようと思ったけど、今日から復活します」(前)



途切れることを知らない猛ラッシュで一世を風靡した山崎通明が引退を表明した。「思うように動けなくなった」ことがリングから身を引く理由だ。息の長い選手だった。80年代後半には当時流行していたマーシャルアーツ・スタイルに乗って山崎も赤いバンタロンを着用して闘い、和製ベニー・ユキデーと呼ばれる時代もある。スピードが最大の武器だったが、この日の山崎は身体のキレが悪く、得意の連打も湿りがち。途中からは井上のミドルの前にサンドバックと化していた。試合前から「勝っても負けても引退」を決意していた山崎だったが、現実はいかにも厳しかった。時代は流れている。奇しくも、この日、MA日本キック連盟の役員の入替えが発表され、同連盟のハンドルを握る理事長の職にはマイウェイジムの宮川拳吉会長が就くことになった。宮川会長によれば、来年からMAはダイヤ有明と北沢タウンホールを主戦場に活動していくという。今後は選手のモチベーションを上げるようなマッチメイクを組み、年末に全階級タイトルマッチ開催の青写真を描く。いい選手はたくさんいるんだけど、それを活かさされていない。それがMAの現状だ。この日、ライト級王者になった木村元や、山田健博はもっと注目されてもいい。興行の流れを見ても、盛り上がる試合と散漫な空気が流れる試合のギャップが激しかった。その差をいかにして埋めていくかが、MA再浮上のキーポイントとなるだろう。いずれにせよ、山崎が引退し、体制も一新されたことで、ひとつの時代は終わった。MAも21世紀に突入だ。(布施)